

### 〈中山峠の釜めし〉



中山峠森の美術館で新名物「中山峠の釜めし」が誕生しました。地鶏の旨みたっぷりの茶飯に、喜茂別産の自然素材をふんだんに取り入れ、ひと釜ひと釜アツアツホクホクに炊き上げています。豪華な「中山峠四季の釜めし膳」、美術館の鑑賞券とセットになった、お得な「美術館セット」もあります。

### 〈中山峠物産館〉

喜茂別町の特産品がズラリと並んでいます。この他、1階の売店には北海道ならではの「おみやげが勢ぞろい。おなじみの「あげいも」コーナーはいつも賑



しめるのが魅力のようです。

### 〈馬鈴薯〉

喜茂別町ではさまざまな農作物が作られています。中でも馬鈴薯は作付面積、収穫量ともダントツ。澱粉質をたっぷり含み、ホクホクおいしい男爵いも、きたあかりが、年間1万3千トン以上も生産されています。昼夜の温度差が大きく、保水性と通気性のバランスの良い肥沃な大地であることが、馬鈴薯をおいしくする絶対条件。この条件を見事クリアしているから喜茂別町の馬鈴薯は味がいいんです。

### 〈版画〉

平成10年春、全国的に有名な版画家 府川 誠氏が札幌市から移住し、旧羊蹄小学校校舎を利用し、「アトリエ「風舎）」として創作



わっています。2階には旬の素材にこだわったメニューが自慢のレストランもあります。

### 〈中山峠森の美術館〉

しりべしミュージアムロード7番目の美術館としてオープン。19世紀末にヨーロッパ各地で花開いた芸術運動「アール・ヌーボー（新芸術の意）」様式の美術品を日本随一の居室展示で公開。また写真家 嶋田忠氏のネイチャーアートも常時開設。著名な彫刻家による彫刻作品も設置されており、自然と芸術が融合した、やすらぎの空間となっています。ミュージアムシヨ



活動をスタート。羊蹄山を中心とする北海道の雄大な風景をモチーフにした、メルヘンタッチなリトグラフを多く創作しています。

### 〈双子の羊蹄〉

美笹峠から喜茂別方向へ向かうと、御園、中里地区辺りから見える尻別岳（前方羊蹄）と羊蹄山（後方羊蹄山）がまるで双子のよう。大きさは全く違いますが、いつの頃からか双子と呼ばれるようになりまし



ップでは、オリジナルグッズなどを多く取り揃えており、ティールラウンジでは中山峠四季の釜めし膳も召し上がれます。

### 〔は〕

### 〈パークゴルフ〉

昭和58年に北海道喜茂別町で誕生したこのパークゴルフは、ちよっとしたテクニクが必要ですが、飽きるこ



とがないので一度やったらやめられません。喜茂別町でも町民公園内に大会コースとして使用される本格的な36ホールのパークゴルフコースを完備しており、どのコースもいつも賑わっています。子供からお年寄りまで年齢を問わず気軽に楽

た。また、アイヌ語で尻別岳をピンネシリ（男山）、羊蹄山をマチネシリ（女山）ということから、夫婦山とも呼ばれます。山は見る方向によっても形をガラリと変えるので、あくまでもこれは御園、中里地区限定。蝦夷富士と称される羊蹄山に似ているなら、尻別岳もまんざらでもないのでは。

### 〈230の国道〉

札幌と洞爺湖方面を結ぶ国道230号と、苫小牧と倶知安・岩内方面を結ぶ国道276号が交差する喜茂別町。主要道路が重なりあい、文化と情報がこの町を通過して南へ北へ。国道沿いには特産品にこだわった店や、素材のおいしさを堪能できる店、頑固なまでに昔の作り方を守る店など、グルメ街道にふさわしいおいしい店が数々並んでいます。ドライブの休憩スポットもあって安全運転をしっかりとサポート。